

#### (4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 国立大学法人秋田大学教職大学院 共催:教育文化学部附属教職高度化センター 後援:秋田県教育委員会, 秋田市教育委員会
コラボ研修プログラム	テーマ:「令和の日本型学校教育」の推進 - 個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実を図る -
支援事業報告書	研修等名:【NITS・秋田大学教職大学院コラボ研修】 第 13 回あきたの教師力高度化フォーラム 本フォーラムは新型コロナウイルス対応のため全面オンラインで実施 開催日時: 令和 4 年 2 月 19 日 (土) 12 時 40 分~16 時 05 分 開催場所: 秋田大学 (秋田県秋田市手形学園町 1-1) 参加人数 (総数) と参加者の属性: (122 人) 県内 35 人 県外 28 人 学内 59 人

**内容:** <講演> 独立行政法人教職員支援機構理事長 荒瀬克己氏  
<シンポジウム> シンポジスト: 秋田県教育庁教育次長 石川政昭氏・宮崎大学副学長 新地辰朗氏・秋田大学教職大学院特別教授 阿部昇氏(兼コーディネーター)、コメンテーター: 荒瀬克己氏  
・基調講演「一人ひとりの子どもを主語にする学校教育をめざして」。初めに、「幸福に生きるために学ぶ」「学ぶことは、生きることに繋がっている」と話された。そして、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう「知識・技能、思考力等、態度」の育成が必要であり、子どもに必要な力は大人にとっても必要な力。教育は内発を促す外発である。「出会う・知る」から「気づく」に、「気づく」から「問う」に、「学び」を始めると考える。  
・1「新学習指導要領の基本的な考え方」、2「教育課程～学習指導要領「前文」から…自己肯定感」、3「カリキュラム・マネジメントとしてコミュニケーションと教師の学び」について話された。以下キーワードを記す。子どもが学び学び合う学校、教職員が学び学び合う学校、教育課程は 5 つのことができるようにするために各学校において組織的・計画的に組み立てるもの、評価は子どもたちへの応援でなければ、自己肯定感を養っているか? 「目標-現状=課題」、RPDCA: 現状の把握・分析・共有から、組織としてのメタ認知は共有・共感・協働を培うコミュニケーションで、教職員間のコミュニケーションの成立条件。多くのことに立ち止まって考える機会を得た。  
・個別最適な学びと協働的な学びを「一体的に充実する」ことについて 3 名が提言され、コメンテーターの論点整理ののち、登壇者で意見を交わした。新地氏は学びを深化・転換させる授業に向けて、新たな学習環境とメディア活用の創意工夫の 2 点を挙げ考えを述べた。石川氏は秋田の探究型授業の基本プロセスを基に、個別最適な学びと協働的な学びを構造的に組み込むこととの必要性を述べた。阿部氏は個別最適な学びと協働的な学びの「一体的な充実」について、「わかりにくさとその克服」と題して考えを述べた。阿部氏の刺激的な問いかけが登壇者ひいては参会者自らの「問い」を表出させ、活発な意見交換へとつながった。以下キーワードを記す。自分事、選択、記録、問いから始まる・問いの質の精選、省察、構造的に組み立てる力量こそ教師に求められる。

**成果:** 事後アンケートに 71 人回答。「とても満足」56 人、「どちらかという満足」14 人等。以下自由記述より。  
・個別最適な学びと協働的な学びを行き来する、あるいは組み込むといった表現が分かりやすく、単元や授業構想のイメージを少しもつことができました。「時代に合わせた教育の変化の時期」として ICT の効果的な活用を含め、「教育の不易と流行」を見定めながら、更に自己研鑽を積みたいと思います。  
・他のシンポジウムにおいて、当たり障りのない議論が多い中、阿部先生の鋭い切り口やご質問によって、参会者が聞きたいことに迫っていただけたところに満足感がありました。授業においても、教職員の組織開発においても、「動きを生み出す問い」の重要性を感じました。

#### アイデアや工夫したこと:

・令和 3 年 1 月の「令和の日本型学校教育の構築を目指して」(答申) に携わった独立行政法人教職員支援機構理事長荒瀬克己氏による講演から答申が意味する本質学び取ろうとしたこと。「チャットでドン」の活用。  
・個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実について、シンポジスト兼コーディネーターを務める阿部氏からの「参会者の疑問に合致した問題・課題」の提起による本質(本音)をぶつけ合うシンポジウム。  
・講演とシンポジストの提言を基にした「3 名のシンポジストとコメンテーターの 4 名によるディスカッション」と「参会者との質疑応答」の重視とその活発化。講演で「チャットでドン」、シンポジウムは「チャットでどんでん」でつながりを。  
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」、「ICT の活用」の視点を絡めながらのシンポジウムを目指したこと。



講演講師・コメンテーター：NITS 理事長 荒瀬克己

生徒や学校、地域の実態を適切に把握  
 ○教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていく  
 ○教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていく  
 ○教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保し改善を図っていく

教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと  
 ……カリキュラム・マネジメント



シンポジスト：秋田県教育庁教育次長 石川政昭

【秋田の探究型授業】の基本プロセス

【平成30年度版】  
 授業の「進捗」をモニターする  
 目的「何を学ぶか」を明確にする  
 集団「ペアワーク」「グループワーク」で話し合う  
 学習の振り返り「自分の学び」を振り返る

【令和4年度版】  
 授業の「進捗」をモニターする  
 目的「何を学ぶか」を明確にする  
 集団「ペアワーク」「グループワーク」で話し合う  
 学習の振り返り「自分の学び」を振り返る

「秋田の探究型授業」のプロセスは、平成25年度の全国学力・学習状況調査の学校質問紙、授業実践調査における、本県の「あて・目標の提示」「学習内容を振り返る活動」「話し合う活動」の質問項目の取組が顕著に高かったことから、その内容をこれまでの秋田県の取組を基に更新し、本県の特徴として改めてプロセスとして示したものである。令和4年度版では、ICTを活用した新しい探究のイメージを持てるよう、イラストをリニューアルしている。



シンポジスト：宮崎大学副学長 新地辰朗

児童生徒の未来を見通し、社会のニーズに応える学校教育

教育課程（カリキュラム）により、  
 ■ これからの時代に求められるよりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会共有できているか？  
 ■ 学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようになるのか明確にされているか？  
 ■ 社会との連携及び協働を实装しているか？

社会の動向を捉えた目標設定  
 ● 人口減少、グローバル化、イノベーション改革、SDGs, ...  
 ● 従来の知識・技能 + コンピテンシ、資質・能力

教育課程の整備（学校教育改善）  
 ● カリキュラム・マネジメント  
 ● 各教科で高める能力と、教育活動全体で高める能力

授業の改善（学びを深化させ、学びを転換させる授業）  
 ● 授業の構想、臨機応変な授業実践、教員間での省察  
 ● 見過ごしを持たせ、学ばせ、振り返りを通して修正・成長を求める授業

学校・教育課程への期待  
 「社会に開かれた教育課程」へ対応・意識？  
 Word Wide Learning  
 グローバル人材を育成  
 先進的なカリキュラム開発  
 国内の大学  
 企業や国際機関等と協働  
 グローバルな社会課題  
 チームで取り組む  
 本学教育の先駆的取組等  
 学年や学校を超えた  
 一歩も進まない



シンポジウムにおける討論の様子（右上はシンポジスト兼コーディネーターの秋田大学 阿部昇）

秋田大学教職大学院  
 「令和の日本型学校教育」の推進一歩別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実を図る

【NITS・秋田大学教職大学院コラボ研修】  
**第13回 あなたの教師力高度化フォーラム**

本教職大学院では、年度末に実施する本フォーラムを院生が研究した成果を発表する機会としております。今年度も、学校マネジメントの視点や主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業指導法構築など、現代の教育課題に基づく様々な発表を行う予定です。

2日目は、この研修終了後、独立行政法人秋田県立支援機構理事長の 荒瀬克己 氏による講演並びに個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためのシンポジウムを開催し、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、2日目の講演とシンポジウムは会場参加とZoom参加のハイブリッド型による公開となりますが、多くの皆様参加をお願いたします。

◆期日 令和4年2月18日（金）・19日（土）  
 ◆会場 秋田大学の青年センター（教育文化学部3号館145教室）、他  
 ◆対象 会場参加：秋田県内の教職員・研究者等、秋田大学関係者及び招待者  
 Zoom参加：全国の教職員・研究者・教育委員会指導主事・研修員・教員志望学生等（Zoom参加は2日目の講演とシンポジウムになります）

◆日程 <1日目：2月18日（金）>  
 9:00 開場・受付（秋田大学60周年記念ホール前）  
 9:30 開会行事  
 9:50 秋田県総合教育センターとの連携による発表  
 ・教職実践研究発表講座（学部生）の発表  
 ・秋田県総合教育センター研修員の発表  
 11:50 中間発表（学部卒業生1年、現職教員院生1年）  
 12:50 昼食・休憩  
 13:50 研究発表発表会①（学部卒業生2・3年）  
 <2日目：2月19日（土）>  
 9:30 開場・受付（同上）  
 10:00 研究発表発表会②（学校マネジメントコア現職教員院生、現職教員院生2年）  
 11:40 昼食・休憩  
 12:40 講演：「令和の日本型学校教育」の推進  
 <講師>独立行政法人秋田県立支援機構理事 荒瀬 克己 氏  
 シンポジウム：個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実を図る  
 <シンポジスト>  
 秋田県教育庁教育次長 石川 政昭 氏  
 秋田大学副学長 宮崎 辰朗 氏  
 <コメンテーター>  
 独立行政法人秋田県立支援機構理事 荒瀬 克己 氏  
 <シンポジスト兼コーディネーター>  
 秋田大学教職大学院特別教授 阿部 昇 氏  
 15:55 閉会行事

\*新型コロナウイルス感染症の状況により、計画を変更する可能性があります。必ずご確認ください。場合によっては、本学教職大学院HP（<https://www.akita-u.ac.jp/odunumar/>）にてお知らせいたします。

【主催】秋田大学教職大学院  
 【共催】秋田大学教育文化学部附属教職実践センター  
 【協賛】秋田県教育委員会/秋田県立支援機構理事  
 【問い合わせ先】秋田大学教育文化学部総務課  
 〒010-8502 秋田大学学業第1号  
 ☎010-8581-2929 E-mail:kyosaku@jyu.akita-u.ac.jp  
 【申込方法】裏面をご覧ください。



パンフレット